



標語に就いて

生

即ち出来得る限りに於て... 標語は句詞形に表現され... 簡潔に表現して、却て餘韻あふらしめが爲には當然省略せざるべきなり、

新妻久満夫選

○亡き父を思ひ泣きしこの年ぞ、思ひ出の年... 二十二年の年... 顔の慕しも

二月懸詠

梅、よろこびの歌。(制限なし) 二月は、皆々何れも負けじ劣しき、心は動揺し、目には涙の光を...

譽れの優勝旗

大和田智恵子

「四年、三年、二年、一年... 天にとどろけとばかり一時に湧き起つた。これこそ私が女学生となつてから、期待してゐた初めての運動會の數ある競技中の見物と呼ぶにふさわしい、各学年選手四百...

Table with columns for dates and names, likely a schedule or list of events.

潮聲硯抄帳

同 赤羽松堂選

鶴鶴の啼うつりして尾を振れる 石城 水つけて煙必死と泳ぎ 芳月 新妻の乾く匂ひや馬肥ゆる 水明 森深く鳥居見を居り秋の蟻 一秋 椋鳥の一樹にむらさ 柴子

石鷄新年句會

新海苔をかざしあふれる 大爐かな 一衛 鐵初の哇にゐる子の鴉 呼ぶ 同 線下にすくめる鶏や雪 詩音のいよ 強きし まさかな 蒼州子 鐵初父に任せて寝過し 同

今朝みれば、松ヶ岡公園

今朝みれば、松ヶ岡公園 園の噴水の龍も、まっ白く氷結して、うづくまつてゐた

山ノ怪秘

戸隠 丸山寛雄作

「た待出かしたぞ、もう一と押した」 誰が聲援するの、角力か棒押しでも見る氣になつて、群衆の後ろの方で叫ぶ者がある。前列の方に立つて見物する者も、尻がり腰で逃げ仕度をしてゐる。平七郎の目と目の中間に輝いて見ると、見る方も真剣である。今、流之丞が、小手をやで、殆んどその一瞬、眼目



「お、待てッ」 平七郎は、隙かす跡を追つて、茶屋の奥まつた中庭、駈け込んだとき、それ、バラバラと大小を駈たらこの立合も無敵、あ、横ならびに並んでおつたひよつとすると、又失敗。控へろ。白晝、双を抜いた。そんなことを思ふため、真中の立派な羽織を着たのが、身体を揺つて、鋭く平七郎を睨みつけた。萬事休す！また駄目だつた。平七郎は、突然の宿役人の出現に愕くよりも、流之丞を取返さず口惜みを思つた。「何の意図かは知らぬが、人の往來の繁い宿場の中で、以ての外ぢや、何處の藩に籍をおかれる者か」平七郎は、もうこんな待たせぬと、目を下げておたがひを云つても駄目だと思つた。静かに下げておたがひを腰の鞘に落す。「拙者こと、戸隠山頭光寺院代職刈馬左衛門一子刈馬平七郎と申す者でござる。貴は過ぐす頃、顯光寺々寶が盗難に遭ひました故、その行方を探索中との計らうも當家の前に、治人を發見いたしましたので、治人を追かけてこれへ踏み込んだ次第でございます。平七郎は、もうこれは引上げた心の中で考へてゐた。ふむ、今、これへ馳け込んできたのが、それだ。だが、こうしてゐる間に流之丞は逃げました。平七郎は惜しくも窮鼠を逸してしまつた

高島屋 洋服は 注文並に既製品 高島屋洋服店 平町吳服商組合 福引大賣出し 前田醫院 産科 婦科 外科 木村病院

吉田眼科病院 吸入用酸素 關内藥局 磐城代表的の上産品 上田醫院 平屋賣店

